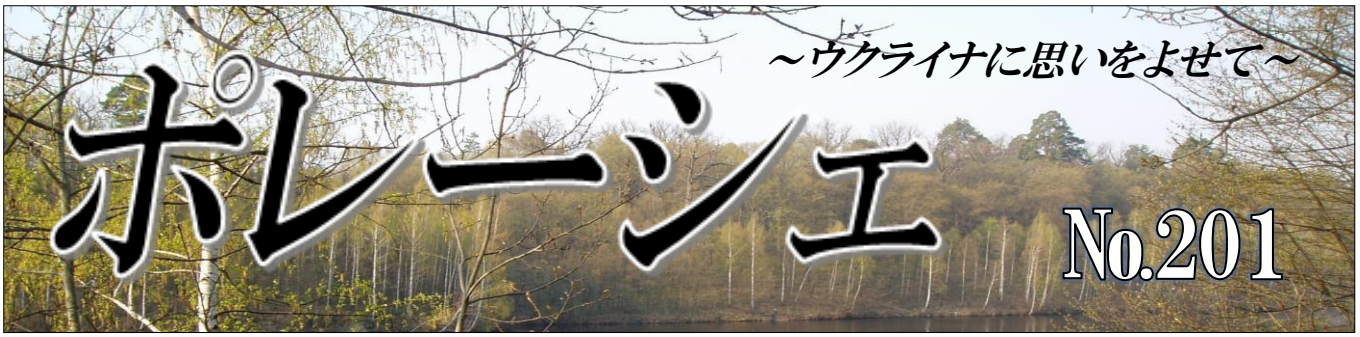
「ポレーシェ」とは、チェルノブイリ付近の湖沼低地帯の呼称です。



2024 年 9 月 15 日発行　　特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部

ウクライナの子供たちの絵画展　開催　@宇都宮市文化会館

ヤスィノク・オリガ

7 月 6 日・7 日、私たち「ウクライナを支援するひまわりの会」は、宇都宮市文化会館でウクライナの子供たちの絵画展を行いました。たった 2 日間で、126 人の子供と大人が展覧会を訪れました。多くの人は、絵画に示された技量と深い洞察に感銘を受けました。38 人が自分の手で、ウクライナのお守り人形、モタンカを作りました。一生懸命折り紙を作って下さった方たちもありました。

ご寄附とモタンカ作りのワークショップの参加費で、20 万円を集めることができました。このご寄附はすべて、ロシアのミサイル攻撃によって 7 月 8 日に激しく破壊された、キーウの母子保護病院の再建に充てられます。これはウクライナで最高の小児病院で、年間約 2 万人の子供たちの治療を行っています。今、心ある多くの人たちと団体がこの病院を支援しています。そして私たちも、皆さんのご寄附にあわせて母子保護病院への寄附を行いたいと思います。 主催者の私たちも、そして展覧会を訪れた方々も、ウクライナの子供たちが戦争という不幸をどのように見ているのか、そして彼らがどんな条件の下で、どんな恐怖を覚えながら、子供時代を過ごさなければならないのかを感じて、心を痛め、涙を浮かべました。子供時代といえば、世界の多くの人にとっては、喜びと家庭での穏やかな暮らし、友達との冒険や幸せな思い出を連想させてくれるものです。でもこの展覧会は、私たちを温かい気持ちにさせてくれました。「チェルノブイリ救援・中部」の方々や、開催にあたって手伝ってくれたボランティアの学生さんたちが、私たちに連帯し、サポートして下さったからです。 ウクライナに同情し、支援して下さっている日本の方々の優しいお気持ちに、心から感謝申し上げます！

モタンカ人形

【ウクライナ情報】① 「チェルノブイリの人質たち」(イェウヘーニヤ・ドンチェヴァさん) (抜粋)

＜6/14＞◎2023ー2024年度の最終的な業務委託費収支表をお送りします。基金への財政援助にお礼申し上げます。皆さんがいなければ、とっくの昔に基金を解散していたでしょう。

◎子供たちの絵画展について。ウクライナと私たちの生活について、このような形で日本の人たちに届けるというのは、いいアイディアでした。私たちはジトーミル市の児童・青年創造センターとオヴルチの絵画学校で、絵画展についてアナウンスし、提出期限は1ヶ月でした。それぞれの施設の審査委員会が作品を選び、私に届け、日本に送ったわけです。それぞれの作品には、作者である子供の考えが反映されていることを言っておかなければなりません。

＜7/4＞◎「子供たちの保養」プロジェクトについて。ナロジチ自治体によれば、占領下にあった村の16人の子供たちのリストが作成されました。ジトーミルへの移動、宇宙飛行士博物館とショッピング・モール内の遊興施設訪問、マクドナルドでの食事(子供たちが要求したそうです)が予定されています。

＜7/12＞◎こちらは酷暑がもう何日も続いています。今年の暑さは何か信じられないほどです……。私は、仕事は早朝にすることにしました。その後になると、暑さのせいでとにかく何もできません。来週も同様の暑さ、もっと暑くなるとの予報がありました。どこの事務所もリモート勤務になるか、一時閉鎖されています。私も、勤務時間を変更したことを皆に知らせました……本当に暑いです。

◎こちらの戦時下の状況について少し。今、毎晩空襲警報で飛び起きています。最近のキーウ・母子保護病院のミサイル攻撃でひどく怯えてしまったからです。私たちのところから軍の飛行場まではそれほど遠くなく、私たちはしょっちゅう大型機のエンジンの唸る音を聞いています。皆ニュースをフォローしており、ウクライナのことが忘れられつつあることは、ますますはっきりしてきています。

② キーウ「未来」(タマーラ・クラシツカさん) (抜粋)

＜6/10＞◎報告は「未来」のサイトとフェイスブックに載せています。多くの人を支援することができました。ご支援とご配慮にとても感謝しています。 私たちにとって困難なこの時期、大変貴重なものです。電気代等全てが値上がりし、人々は貧困に苦しんでいます。でも私たちはそれに負けることなく、互いに支え合いながら生き続けます。今日、子供たちの絵25枚を、事務局宛てにお送りしました。

＜7/8＞◎電気とインターネットの問題がますます大きくなり、以前よりも頻繁に、より長時間切られるようになってしまいました。今、空襲警報の後で事務所にいます。キーウがミサイルによって爆撃を受け、それらを撃墜する轟音が間近に響きました。こちらも暑く、32℃以上です。もうひと月雨が降っていません。私は、多少なりとも作物を救おうと、毎晩畑の水やりに通っています。

連載 152　　トリチウム汚染水海洋放出から1年

国内外の批判を浴びながら、東電がトリチウム汚染水の海洋放出を始めてから１年になる。予想通り、海洋放出で汚染水の問題解決の見通しは何一つ見えない。この１年間に海洋放出した汚染水の量は、合計７回、54,734 ㎥（トリチウム量：8.6 兆 Bq）だが、現在も毎日、新たな汚染水 100 ㎥が発生し続けている結果、実際に減少した汚染水の量は 2.8 万㎥（放出量の半分）に過ぎず、現在（8 月 1 日）も 131.2 万㎥がタンクに貯蔵されている。放出トリチウム量ではこの 1 年間に 8.6 兆 Bq 放出したが、今なを 860 兆 Bq 保管されており、このままでは全量放出までに 100 年以上かかる。国と東電、原子力村の無責任を問う。

トリチウム汚染水は処理出来る

この連載で既に何度も述べた事だが、トリチウム汚染水は処理出来る。東電や国は処理技術がないので海洋放出しかないと主張するがそれは嘘である。軽水とトリチウム水の化学的性質は同じで ALPS 等では分離できないが、物理的性質の違いを利用すれば処理出来る。既に沢山の実験や論文が描かれており政府と東電にも提案されている。にもかかわらず、国と東電はそれらを無視している。なぜか？　膨大なコストが必要だからである。だがこれまでの様々な提案を見れば、現在の汚染水を千倍程度に濃縮し、タンク一個程度に収めるには数百億円～千億円程度で済む事が分かっている。海洋放出にかかる費用とほぼ同じである。それを安全に長期間管理する事は現実的選択である。では、何故国や東電は汚染水処理を行わないのか。表向きトリチウムは海に捨てても安全だから、という。ならば何故 100 年もかけて海洋放出するのか。

六ケ所再処理工場のトリチウム汚染水

海洋放出の本音は別のところにある。計画から既に 30 年以上経つが度重なるトラブル続きで、六ケ所再処理工場は未だに見通しが立たない。仮に、本格稼働すれば高レベル放射性廃棄物の処分は具体的問題になる。高レベル廃棄物処分場は勿論決まっていない。問題は、使用済み核燃料再処理で発生するトリチウム汚染水である。計画によれば、本格稼働で発生するトリチウム汚染水は現在の福島原発で貯蔵中の 20 倍の量が毎年発生し、それを海洋放出する事になっている。青森県や東北・関東の人々はこの計画を知らないのだろうか。現在、福島で貯蔵されている汚染水を処理すれば、当然、六ケ所で発生する汚染水も処理せざるを得なくなる。勿論、コスト的に出来るはずがない。福島の汚染水海洋放出は六ケ所再処理工場運転のための前例作りである。

破綻した核燃料サイクル

原発の使用済み燃料からプルトニウムを取り出し高速増殖炉の燃料にする、それによって燃えないウラン 238 を核燃料に利用出来る、というのが核燃料サイクルの夢で、その本丸が核燃料再処理工場である。だがこの夢は世界的にも破綻した。世界で再処理工場を稼働させたのはイギリスのセラフィールドとフランスのラ・アーグだが、どちらも経済的に割に合わず閉鎖を余儀なくされた。高速増殖炉は日本の「もんじゅ」が 1995 年にナトリウム火災で失敗し廃炉に追い込まれた。アメリカは当初から核燃料サイクルを目指していない。世界的に破綻した「核燃料サイクルの夢」を今も見ているのは日本だけである。勿論、この夢が実現できる見込みはない。にも拘らず、何故この事業は終わらないのか。これには政治が深く関わっている。プルトニウムは原爆の材料だからである。これまでラ・アーグとセラフィールで分離した日本のプルトニウムは長崎原爆 6000 発分に当たる。核兵器廃絶をうたいながら、裏では原爆原料を自国で作る核燃料サイクルを諦めないのは核保有の夢のためである。原料さえあれば今の日本の技術では半年で原爆製造が可能、と言われる。

「原爆と原発は双子の兄弟」はかつて筆者が属していた「反原発キノコの会」のうたい文句だった。

（2024 年 8 月 15 日　河田）

【寄付・会員状況のお知らせ】

◆6 月　寄付/223,944 円、会費/39,000 円
◆7 月　寄付/830,350 円、会費/60,000 円

◆2024 年度累計（ウクライナ救援基金を除く）
1,237,778 円（7 月末）
◆2024 年度ウクライナ救援基金　705,494 円（7 月末）
◆ウクライナ救援基金累計　26,691,157 円
（2022/3/7～2024/7/31）
◆会員数　179 名
◆ポレーシェ読者数　674 名
～心温まるご支援をありがとうございました～

【寄付のお願い】

◆銀行振込先
三菱UFJ 銀行　高畑支店　普通　1682863
◆郵便振替　00880-7-108610
〈口座名義〉
特定非営利活動法人チェルノブイリ救援中部

＊クレジットカードでも受け付けております
（ページ下の QR コードから寄付ページへアクセス！）

※手書き領収書の郵送が必要な方はご連絡ください

当団体は「認定特定非営利活動法人」ではございませんので、ご寄附は税額控除の対象にはなりません。ご了承のほどお願いいたします。

伊那谷８年間の保養が終わりました。

伊那谷親子リフレッシュプロジェクト　事務局:原　富男

８月 2～5 日の 3 泊 4 日、伊那市のロッジ吹上で福島県南相馬市の親子を招いた「保養」が行われました。予定では 2 家族 10 名でしたが、1 家族の同居のおばあちゃんが「病気」で不参加となり、残る 1 家族 6 名での保養となりました。参加者は板倉さん親子で、両親と 10 才の男子、6 才の男子、2 才の女子、3 ヶ月の男子と言う顔ぶれでした。

初日の歓迎会は伊那フィルの有志 4 名が弦楽 4 重奏で「となりのトトロのテーマ曲」「夏はき来ぬ」など 4 曲が演奏されました。2 日目は午前「ジャガイモ掘り」に続き「そば打ち体験」、午後は「川遊び」と伊那祭りの「花火見学」を楽しみました。3 日目午前、板倉さん親子は木曽の「奈良井宿」巡り。午後は「木曽おもちゃ美術館」に行きました。美術館は木製のおもちゃにこだわっており、遊び体験も製作体験もできるユニークなところでした。建物の外には川が流れており石で区切られた池のようなところではイワナの「つかみ取り」が出来、大人も大喜びでした。

夕食を食べながら板倉さんから事故当時の話があり、スタッフ、ボランティアも混じり温かい思いの溢れる交流会となりました。

＊今年で 8 年続いた保養の受け入れを終了します。田舎で出来る被災者への支援がすこしはできたと思っております。皆さんに心から感謝いたします。ありがとうございました。

発行　特定非営利活動法人　チェルノブイリ救援・中部
〒460-0012　名古屋市中区千代田 5 丁目 11-33 ST PLAZA TSURUMAI 本館 5B
TEL＆FAX　052－228-6813（月・水・金 10:00 ～ 15:00）
E-mail　chqchubu@muc.biglobe.ne.jp　URL　http://www.chernobyl-chubu-jp.org
印刷　エープリント

http://www.chernobyl-chubu-jp.org/kessai.html